

海老名市教育委員会

(令和7年 9月 定例会議事日程)

日時 令和7年9月25日(木)

午後3時00分から

場所 えびなこどもセンター 2階 201会議室

【教育長報告】

【審議事項】

日程第 1 議案第 26号 海老名市指定重要無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定について

日程第 2 議案第 27号 令和7年度海老名市奨学生選考委員会への諮問について

海老名市教育委員会

令和7年 9月 定例会

【教育長報告】

1 主な事業報告

- 8月21日（木） 教育委員会8月定例会
教育課題研究会
市長定例記者会見
市主催教職員研修
薩摩川内市観光物産課長面会
- 22日（金） ひびきあう教育研究発表大会
ライフスタディサポート事業報告会
- 23日（土） 扇町おもいで祭り
- 25日（月） 市主催教職員研修
フルインクルーシブ教育保護者との対話の場（大谷中）
- 26日（火） 県・市フルインクルーシブ教育推進会議
学校市教委事務調整会議
- 27日（水） 第二学期始業式
市議会第3回定例会本会議（開会）
代表質疑振り分け部内調整
- 28日（木） 朝のあいさつ運動（有鹿小・海西中）
あそびっ子クラブパートナー長会議
初任者研修デイキャンプ
代表質疑部内ヒアリング
- 29日（金） 8月校長会議
代表質疑市長ヒアリング





- 9月 2日(火) 市議会第3回定例会本会議代表質疑
一般質問振り分け部内調整
- 3日(水) 教頭人事交流者面談
フルインクルーシブ教育保護者との対話の場(今泉中)
一般質問部内ヒアリング
- 4日(木) 台風15号に関する情報連絡会
初任者研修研究授業参観(中新田小)
授業改善実践推進委員会研究授業
一般質問市長ヒアリング
海老名中吹奏楽部東関東大会出場激励
- 5日(金) 台風15号対応(通常登校・給食後一斉下校)
- 6日(土) 薬物乱用防止街頭キャンペーン
海老名高校文化祭
市P連本部役員交流会
- 7日(日) 避難所開設訓練(有馬小)
中新田かかしまつり審査
吹奏楽東関東大会(海老名中出場)
- 8日(月) フルインクルーシブ朝会(社家小)
全国学状結果基礎資料報告
- 9日(火) フルインクルーシブ教育保護者との対話の場(柏ヶ谷中)
国際教育担当者会
- 10日(水) 中学校通級指導教室担当教職員との座談会
フルインクルーシブ教育保護者との対話の場(社家小)
市主催研修(北海道江別市教育委員会視察)
教頭人事交流者面談
- 11日(木) 9月教頭会議
ボーリング全国大会優勝者(今泉中2年)市長面会同席
空手全国大会優勝者(小学生・高校生)市長面会同席



- 12日(金) 市議会第3回定例会本会議一般質問①
 14日(日) 海老名中学区青健連アスロースターコンクール審査会
 16日(火) 市議会第3回定例会本会議一般質問②
 17日(水) 市議会第3回定例会本会議一般質問③
 18日(木) 子育て支援チーム会議
 海老名市児童絵画作品展実行委員会
 小学校校長代表面談
 19日(金) 初任者研修研究授業参観(有馬中)
 21日(日) 中新田かかしまつり表彰式
 22日(月) 予算決算常任委員会文教社会分科会
 初任者研修研究授業参観(杉本小)
 24日(水) 架け橋プログラム推進協議会
 25日(木) 教育委員会9月定例会
 教育課題研究会
 初任者研修研究授業参観(有馬小)





「議会での一般質問」

8月27日に開会した海老名市議会第3回定例会は、代表質疑、一般質問、委員会での決算審査を終え、30日に閉会を迎えるところであり、ここまで、教育委員会事務局・教育部職員の労を惜しまずの議会対応により、順調に進んでいるところです。

議会は、3月、6月、9月、12月と年4回、定例会が開かれます。

4回の定例会の中で、議員は、市民の代表者として、市政に関する一般質問を行います。一般質問では、議員が、本会議場で、登壇して、市政への質問として、自分の思いや考えを述べます。私は、一般質問は、議員にとっての晴れ舞台であると、勝手に受け止めています。

一般質問をするためには、議員は、議会事務局に質問項目や内容を事前に通告しなければなりません。

その通告を受けて、答弁を担当する部署の割り振りがあり、その割り振りに従って、各部署で答弁書を作成することになります。

教育に関する質問は、毎回、多めです。

ちなみに、本定例会では、登壇18名の議員のうち11名から、次のような質問がありました。

- | | |
|-------------|---------------------------|
| ◇宇田川 希議員 | ○文化財の活用について |
| ◇星 伸 一議員 | ○物価高騰対策施策について |
| | ○平和について |
| ◇倉 橋 正 美議員 | ○学校施設再整備計画について |
| ◇森 英 之議員 | ○学校給食について |
| | ○子どもたちの夏の遊び場について |
| | ○子どもたちの通学負担の軽減について |
| ◇吉 田 みな子議員 | ○学校におけるフレグランスフリーの環境整備について |
| ◇大 下 久 美議員 | ○学校給食費無償化について |
| | ○小1の壁低学年児童の朝の預かり事業について |
| ◇鈴木 さよ子議員 | ○今泉小学校区への新設校について |
| (欠席のため対応なし) | |
| ◇ありい あいこ議員 | ○教育現場における性教育の取組について |
| | ○人口増への対応について(学校、学童) |
| ◇さ の る み議員 | ○世代教育と未来像について |
| ◇永 井 浩 介議員 | ○部活動のあり方について |
| ◇大 塚 真 樹議員 | ○フルインクルーシブの推進について |

そのため、教育部の職員は、答弁書の作成に多くの時間と労力を費やすことになります。

なぜなら、通告から2日後の市長ヒアリングまでには、答弁書を整えなければならない、まずは、教育部内で、答弁の方向性を共通理解して、必要に応じて、質問の意図や細かな内容を議員から聞き取りして、タイトなスケジュールの中で、答弁書を作成しなければならないからです。

私としては、議会对応は、行政の責任を果たす最優先の職務ではありますが、それに取り組む、教育部職員の仕事ぶりに、大いに感謝するところです。

あらためて、一般質問は、先ほど述べたように、議員にとっての晴れ舞台であり、市民に公開される公的な場であり、議場での議員とのやり取りの中で、議会は、市行政をチェックする役目もありますが、課題や問題を指摘するだけでなく、批判するだけでなく、その解決に向けた、前向きで建設的な、よりよい議論が展開できればと思うところです。

そして、私としては、一般質問をととして、議員の向こうの市民のみなさんに、海老名市教育委員会としての教育に関する思いと考え方、それを達成するための具体的な手立てをていねいに説明し、理解と協力を得る貴重な機会であると捉えており、職員とともに、全力で、議会对応を行っているところです。

次回は、12月、第4回定例会となります。

どんな一般質問となるか、楽しみにしているところです。

以上です。

※別紙参考

教職員への便り 令和7年度「いがすたいがすた」 第5号





いがすた いがすた

教育長だより 第5号

2025.8.26 伊藤 文康

先週金曜日のひびきあう教育研究発表大会、みなさんにお集まりいただき、ありがとうございました。暑い中、お疲れさまでした。

一年に一度、市内19校の教職員のみなさんが、一堂に会するということが、私としては、多くのみなさんにお会いできることが、教育について、みんなで思い・考えるということが、何よりもうれしいところです。

また、有馬小学校、今泉小学校、今泉中学校の実践発表、こどもたちのために、教職員がひとつになって取り組んでいる各学校の思いが伝わり、ありがたいです。発表のみなさん、🌸花丸です。

さて、いよいよ、明日から、第二学期がはじまります

夏休み、部活動の練習・大会・コンクール等で、こどもたちの指導・支援をしていただいた方々は、暑い中、ありがとうございました。

そんな方々も含めて、みなさん、少しはゆっくりできたでしょうか。リフレッシュすることができたでしょうか。

明日の準備は、いかがでしょうか。

学校に帰ってきたこどもたちをどのように迎え、どんな言葉をかけるのでしょうか。

はじまりは、ボチボチがよいのですが、間違いなく、ばたばた、あわただしい毎日となることでしょう。

そんな中でも、こどもたちとともに、第二学期の学校教育活動を実践してください。また、教職員仲間として、お互いに助け合って、支え合って、学校運営を進めてください。

よろしくお願いします。

『ひとつ、お願い。』

始業式、多くのこどもが元気に登校してくることでしょう。

私は、こどもの頃、学校がはじまるのがイヤでした。でも、行かなきゃいけない場所だということで、何とか、行きました。

みなさんは、どうでしたか。

はじまりは、これまでも対応していただいておりますが、ひとりひとりの様子をていねいに見てほしいものです。ともすると集団の雰囲気で流れていきますが、ひとりひとりの顔をよく見てほしいのです。

それが、私の、ひとつ、お願いです。

そして、こどもだけでなく、みなさんひとりひとりもオンナジです。

お互いに声をかけ合い、学校の日々を過ごしてください。じゃ。



議案第 26 号

海老名市指定重要無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定について

海老名市指定重要無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定について、議決を求める。

令和 7 年 9 月 25 日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊 藤 文 康

提案理由

海老名市文化財保護審議会からの答申に基づき、海老名市指定重要無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定をしたいため

海老名市指定重要無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定について

1 趣旨

海老名市文化財保護条例（平成31年 3 月 28 日海老名市条例第 8 号）第 5 条第 1 項の規定に基づき、次の文化財を海老名市指定重要無形民俗文化財に指定し、同条第 3 項の規定に基づき保持団体を認定したいため、議決を求める。

なお、これに伴い教育委員会指定郷土芸能の指定（昭和52年10月12日指定）を解除する。

2 対象文化財

海老名の祭囃子

3 保持団体

海老名市はやし保存連絡協議会 会長 大塚真樹

4 経過

令和 7 年 5 月 28 日付け海教総発第30号で、海老名市文化財保護審議会へ海老名市指定重要無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定について諮問した。

令和 7 年 8 月 18 日付けで、海老名市文化財保護審議会より、海老名市指定重要無形民俗文化財に指定し、保持団体を認定する旨、指定理由を付して答申を得た。

5 文化財保護審議会の答申

別添のとおり

6 教育委員会指定郷土芸能の指定解除について

国分囃子保存会及び柏ヶ谷囃子保存会は昭和52年10月12日の教育委員会で海老名市教育委員会指定郷土芸能に指定された。

指定重要無形民俗文化財に指定及び、海老名市はやし保存連絡協議会を保持団体として認定したことに伴い、同協議会の構成団体である国分囃子保存会、柏ヶ谷はやし保存会の郷土芸能の指定は解除する。

7 今後の予定（議決後）

- ・ 告示
- ・ 保持団体認定書の発行
- ・ プレスリリース、広報えびなへの掲載、ホームページへの掲載
- ・ 議員全員協議会で報告

令和7年8月18日

海老名市教育委員会 殿



海老名市文化財保護審議会
会長 浜田 弘明



海老名市指定重要文化財の指定について（答申）

令和7年5月28日付海教総発第30号で諮問を受けた海老名の祭囃子の海老名市指定重要文化財の指定について、当審議会において審議を行った結果、海老名市指定重要無形民俗文化財に指定し、海老名市はやし保存連絡協議会を保持団体として認定するとの結論を得ましたので、指定理由を付して答申します。

記

1. 名 称

海老名の祭囃子

2. 区 分

海老名市指定重要無形民俗文化財

3. 保持団体

名 称 海老名市はやし保存連絡協議会

代表者 会長 大塚貞樹

4. 指定理由

市内 17 地区に伝わる祭囃子について、最も古い伝承年代は江戸時代後期に求められ、戦時中の中断はあったが、現在まで伝承が続いている。歴史性、独自性、伝承性いずれの観点からも地域に根付く貴重な文化であり、指定により市内外で広く認知され、各地区の交流がより盛んになり、後継者の育成につながるものと期待できるため（詳細は別紙指定理由書のとおり）。

5. 保持団体認定理由

海老名市はやし保存連絡協議会（昭和 52 (1977) 年発足）は海老名市域に伝承した祭囃子を継承するはやし連、保存会からなり、地区同士で技術を伝授しあうなど相互に協力し、祭囃子の演奏を行っている。海老名の祭囃子を継承する上で欠かせない組織であり、今後も長く存続することが見込まれるため。

指定理由書

1. 名 称： 海老名の祭囃子
2. 区 分： 重要無形民俗文化財
3. 保持団体： 海老名市はやし保存連絡協議会
4. 代表者： 会長 大塚真樹

5. 文化財の概要と評価

海老名市内には 17 地区のはやし保存会（はやし連）があり、地区内外の祭礼等で演奏が行われている。このうち 10 地区（国分、大谷、下今泉、上郷、杉久保、本郷新宿、今里、社家、中野、門沢橋渋谷）が江戸時代後期から明治期に開始され、4 地区（柏ヶ谷、中河内、本郷下河内、本郷上町）は大正時代から戦前に開始、その他 3 地区は周辺地区からの教えにより昭和 50 年代に開始された。囃子の演奏は各地区とも太平洋戦争により中断したものの、昭和 50(1975)年頃から再開、復活した。昭和 51(1976)年に市制 5 周年を記念したえびなふるさとまつりの開催を契機として、同年に「海老名市はやし連」が発足、昭和 52(1977)年には各地区が所属する「海老名市はやし保存連絡協議会」に発展、えびなふるさとまつり（平成 18(2006)年からはえびな市民まつりに改名）に参加し演奏するとともに、昭和 54(1979)年からは毎年 1 月に新春はやし叩き初め大会を開催し、各地区が一堂に会し演奏を行っている。

市内の祭囃子の系統は北部と南部で異なり、北部は柏ヶ谷、上今泉、国分、下今泉、上郷、河原口、中新田で大和市、綾瀬市、座間市と関連が深く、南部は大谷、中河内、杉久保、本郷 3 地区、今里、社家、中野、門沢橋で平塚市、茅ヶ崎市域の囃子と関連が深い。

同じ系統であっても各地区で演奏する曲目や叩き方、囃子のことば、テンポ、掛け声は少しずつ異なるが、使用する楽器は共通しており、大太鼓 1、小太鼓（締太鼓）4、笛（篠笛）1、摺鉦 1 を基本とする。各団体とも祭礼の際にはトラックの荷台に屋台を組み上げ、揃いの法被を着用した叩き手が乗車し、移動しながら演奏する。屋内の演奏では小太鼓の後ろに座布団を敷き、叩き手が多い場合は交代しながら演奏する。囃子の叩き手は小中学生が多く、かつては青少年の健全育成の側面もあったが、近年は郷土芸能として、囃子の音色を次世代に継承する側面が強くなっている。

海老名市内では祭囃子を「はやし」、「おはやし」と呼称するが、重要無形民俗文化財としての名称は神社祭礼に奉納される祭囃子であることを踏まえ、「海老名の祭囃子」とする。

（1）歴史的評価

海老名市内の祭囃子は近世後期に由来する団体が 4 団体ある。うち、2 団体については江戸の天下祭における祭囃子隆盛時期とも重なる。明治期に 6 団体、大正期に 2 団体、昭和戦前期に 2 団体が始まったとされ、いわゆる江戸祭囃子の発祥時期を考えても比較的早い時期に伝えられている。また、戦時中中断した団体も戦後には再開しており、戦前からの伝承が続いている。

（2）音曲

海老名市内の祭囃子は北部の下町囃子系と南部の新囃子系に類型化され、更に新囃子系

は2系統に分類することができる。大谷、杉久保、本郷下河内、本郷新宿、本郷上町、中野では「屋台囃子」の「地」と呼ばれる基本リズムが「スコトン」の唱歌で始まり、中河内、今里、社家、門沢橋渋谷では、「テンテケ」の唱歌で始まる。それぞれ独自の工夫も見られ、それによって各団体の特色ある祭囃子を生み出している。しかし、音曲構造に大きな相違はないことも着目すべきであり、これは前の世代から音曲を大きく変更せず受け継いできたという証である。また、由来伝承から下町囃子系は綾瀬市、座間市、大和市域の祭囃子、新囃子系は平塚市の田村ばやしや厚木、茅ヶ崎市域の祭囃子との関連もうかがえる。新囃子系の門沢橋は田村から伝習したが、戦後になり田村ばやしの上町囃子連は門沢橋から全曲の笛を習い覚え、現在の上町の笛のルーツであるという。口頭での由来伝承や伝承経路と合わせて、周辺地域の祭囃子との関係性を音曲から明らかにすることで、県央、湘南地域の祭囃子の研究を進めることができよう。

（３）地域的特色

市内で発足が遅い団体は中新田はやし連と河原口はやし連で、それぞれ昭和54(1979)年、昭和59(1984)年である。しかしまったくの外部から囃子を伝習したのではなく、中新田は国分から、河原口は上郷から習っている。一度中断をした場合でも再開時は市内の囃子から教わったり(本郷新宿など)、途絶えてしまった笛を大谷から改めて伝習したり(杉久保)、踊りを復活させる(下今泉)など、市内での祭囃子ネットワークが確立されている。このように、市内の祭囃子は地域の中で競争心を持ち、独自の工夫を重ねながらも互助してきたからこそ、現在においても活発な活動が継続できている。

以上、海老名市の祭囃子は歴史性、独自性、伝承性いずれにおいても地域に根付く貴重な文化として判断することができる。一方で後継者不足などの課題を抱える団体も多い。文化財指定することでより市内外で広く認知され、継承問題の解決の糸口を探り、団体同士の交流もより盛んになることが期待される。

【海老名市はやし保存連絡協議会（17 団体）】



1 柏ヶ谷はやし保存会



2 上今泉はやし保存会



3 国分噺子保存会



4 大谷はやし連



5 下今泉はやし保存会



6 上郷はやし連



7 河原口はやし連



8 中新田はやし連



9 中河内はやし連



10 杉久保はやし連



11 本郷下河内はやし連



12 本郷新宿はやし連



13 本郷上町はやし保存会



14 今里はやし保存会



15 社家はやし連



16 中野はやし保存会

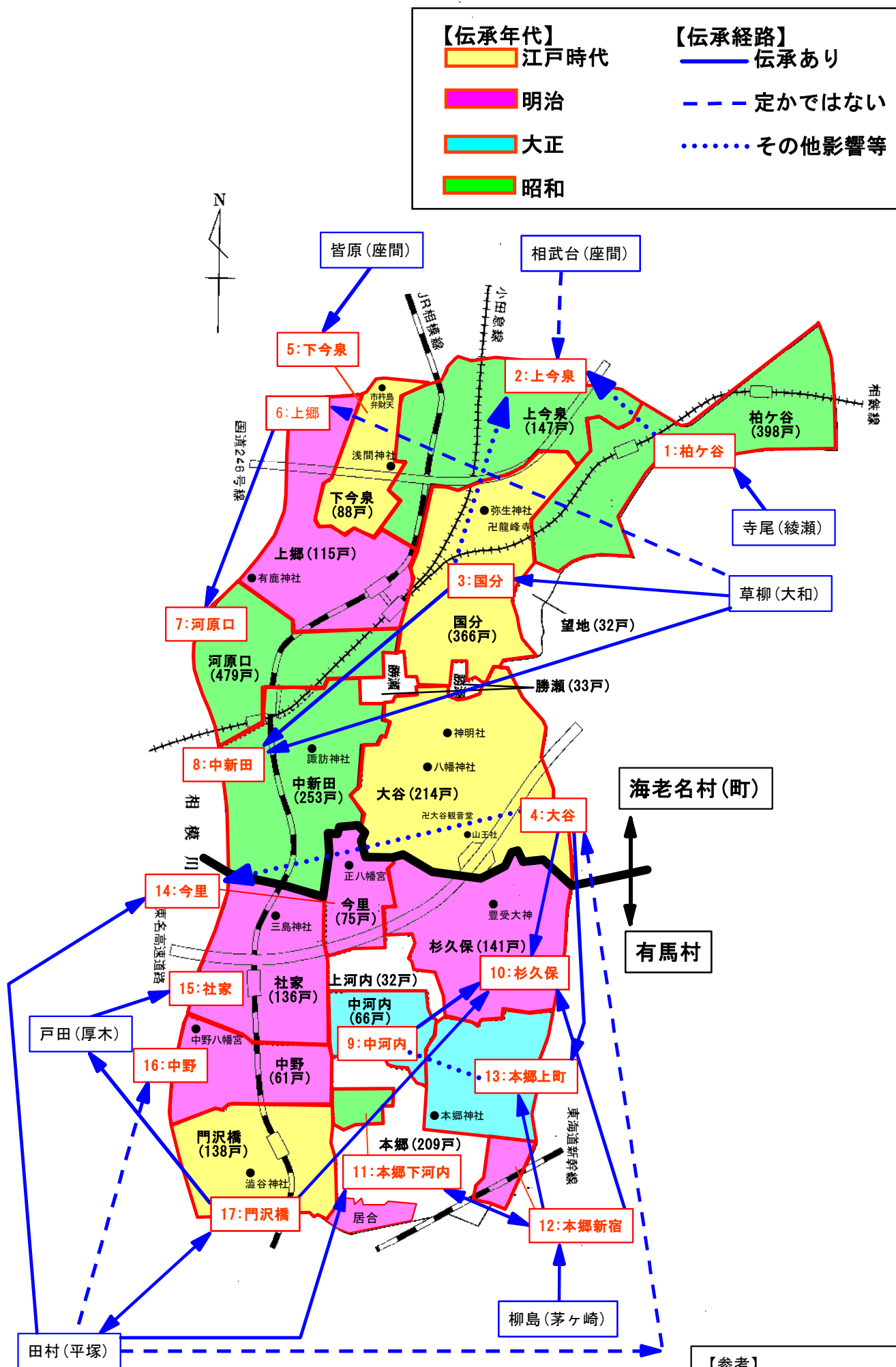


17 門沢橋渋谷囃子保存会

年 代			団 体	柏ヶ谷	上今泉	国分	大谷	下今泉	上郷	河原口	中新田	中河内	杉久保	本郷下河内	本郷新宿	本郷上町	今里	社家	中野	門沢橋渋谷	本郷居合
江戸			1800			1805 太鼓胴内															
							1851 発足	1855 太鼓勸化帳												海老名市史1864 ～ 1865	
明治			1900			1887年 復活 1911 国分郷誌	1911 国分郷誌	1911 国分郷誌	1911 国分郷誌				海老名市史		1873 発足 1882 本郷神社			海老名市史	1882 本郷神社	1888～ 1892 浜降祭参加	不明 1882 本郷神社
																	1909 太鼓墨書				
大正						1920年 再開	1926 山王社文書								1916 太鼓墨書					1912 屋台 震災破損	
昭和	6			1931 発足																	
	16			1941		1939～ 1945 国分郷誌															
				1970									1965 復活								
	50			1975 再開					1975 再開						1975 再開		1975 再開	1975 再開	1974 再開	1975 再開	
	51			市制5周年記念 えびなふるさとまつり参加 会場：市役所	市制5周年記念 えびなふるさとまつり	市制5周年記念 えびなふるさとまつり								1976 再開							
	52			第2回えびなふるさとまつり参加 会場：海田中学校 海老名市はやし保存連絡協議会 発足	第2回 えびなふるさとまつり	第2回 えびなふるさとまつり								第2回 えびなふるさとまつり					第2回 えびなふるさとまつり		
	53			第3回えびなふるさとまつり参加 会場：海老名小・中学校 海老名市はやし保存連絡協議会として 12団体で参加 協議記録簿規約SS3.6施行		第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり			1978再開 第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり		第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり
平成	54			新春はやし叩き初め大会開始	第3回 えびなふるさとまつり			1979 再開			1979 発足										
	55				1980 再開								1980 子どもたちへ指導				1981 協議会加入				
								1990 自治会移管													
令和																					
												休会 令和5年								休会 令和7年～	

海老名市域の囃子団体消長表

※本郷居合は文献により活動していた可能性はあるが、現在は存続していない。



海老名市域の囃子伝承年代経路図

採譜について

(1) 考え方

祭囃子をはじめとする郷土の音楽は、人々の営みを通して常に変化するものである。郷土の音楽の採譜は、あくまで「その時・その場所」での演奏がどうであったかを、採譜者の感覚で捉える作業にすぎず、その音楽の在り様を正確に表現することはできない。例えば、西洋音楽のリズム譜では表現できない微妙な「間」が随所に存在する。大太鼓のリズムはその演奏機会や演奏者によって異なることが多く、毎回同じというわけではない。楽譜は「この日の演奏は、だいたいこのような感じだった」という採譜者の主観に基づく記録であるため、これを基にして演奏を再現しても、本来のお囃子の在り様を表現することはできないということは、念頭に置くべきである。

とはいえ、楽譜を比較することによって「リズムパターンが似ている」「〈きざみ〉と〈らんびょうし〉を含む構成が同じ」等の類似点、あるいは相違点を視覚的に捉えながら、各団体の音楽的なつながりを見出すことができる。採譜により得られた楽譜は、祭囃子伝承者へのインタビューや資料から得られた調査結果を補足するための、1つの手がかりとなるであろう。

(2) 屋台囃子——採譜から見る類似点、相違点

下町囃子系

弱奏のリズムパターン（〈地〉〈きざみ〉等、団体により呼称は異なる）を繰り返し、笛などの合図をきっかけに掛け合いのある強奏部分へ進行する。掛け合いは、「テレスクテレスク」（「テレ」と「スク」の掛け合い）のような唱歌で示され、締太鼓が2つのパートに分かれる。盛り上がりを見せた後、再び弱奏のリズムパターンに戻る。拍子の変化（間の取り方でもある）に富んでおり、息を合わせるところに各団体の特色を感じることができる。

上郷と河原口、国分と中新田はそれぞれ唱歌や奏法が類似しているため、伝播のつながりが見てとれるものの、年月を経て、独自の間や抑揚が生まれている。柏ヶ谷、上今泉、下今泉については、唱歌や形式が全く同じものは市内には見当たらない。

新囃子系

〈地〉と呼ばれる基本リズムと、〈かわちがい〉（〈カワチゲ〉〈玉〉等、団体により呼称は異なる）と呼ばれる部分を繰り返す。〈地〉はリズムパターン（「スコトントロツクトントコトントン」等）の反復であり、〈かわちがい〉では締太鼓と大太鼓との掛け合いが見られる。〈地—かわちがい—地〉（比較表ではABAと表示）を1まとまりとし、そのまとまりの間にさらに〈乱拍子〉〈きざみ〉などと呼ばれる部分を挿入しながら進行する。

1. 地が「スコトン」で始まるグループ（大谷、杉久保、本郷下河内、本郷新宿、本郷上町、中野）

〈地—かわちがい—地〉の間に、〈乱拍子〉〈きざみ〉を挿入する。大谷、杉久保、本郷新宿、中野は〈乱拍子〉→〈きざみ〉の順に挿入するが、本郷下河内は〈きざみ〉を先に演奏しており、本郷上町は〈きざみ〉を省略するなど、各団体により工夫が見られる。また、〈乱拍子〉の中にさらに〈宮昇殿〉や〈馬鹿囃子〉を挿入している団体もあり、構成はシンプルだがそれぞれに個性が見られる。

2. 地が「テンテケ」で始まるグループ（中河内、今里、社家、門沢橋渋谷）

〈地—かわちがい—地〉の間に、〈一の玉〉〈二の玉〉〈三の玉〉を挿入する（地が「スコトン」で始まるグループの中に〈かわちがい〉のことを〈玉〉と呼ぶグループがあるが、それとは意味が異なるので混乱を避けたい）。門沢橋渋谷の譜面によれば、〈一の玉〉〈二の玉〉〈三の玉〉は〈きざみ〉〈乱びょうし〉〈せめ〉とも言い換えられる。

中河内、今里、社家、門沢橋渋谷は、新春叩き初め大会の資料によれば、平塚の田村囃子と関係があると言われている。テンポが比較的速く、力強い演奏が特徴である。

議案第 27 号

令和7年度海老名市奨学生選考委員会への諮問について

令和7年度海老名市奨学生選考委員会への諮問について、議決を求める。

令和7年9月25日提出

海老名市教育委員会
教育長 伊藤 文 康

提案理由

海老名市奨学生を選考するにあたり、海老名市奨学生選考委員会の意見を奨学生の決定に反映させたいため

令和 7 年度海老名市奨学生選考委員会への諮問について

1 趣旨

海老名市奨学生を選考するにあたり、海老名市奨学金条例（昭和43年条例第24号）第6条の規定により、海老名市奨学生選考委員会に諮問したい。

2 経緯

令和 7 年度の奨学生を募集、選考し、6 月の定例教育委員会で予算70名分に対し63名を奨学生として決定した。奨学金を給付することで意志ある生徒の夢や目標の実現を後押しするため、予算の範囲内で追加募集を実施した。

3 諮問文書

別紙 1 のとおり

※別紙文書のほか、面接結果等を添付して諮問する。

4 本年度の実施状況

別紙 2 のとおり

5 スケジュール

令和 7 年 7 月～9 月	追加募集分の奨学生申請者面接
9 月 25 日	定例教育委員会 諮問の決定
10 月上旬	選考委員会で答申決定
10 月 21 日	定例教育委員会 海老名市奨学生の決定

〈参考〉海老名市奨学金条例（抜粋）

（給付の申請）

第 5 条 奨学金の給付を希望する者は、教育委員会に申請しなければならない。

（奨学生の決定）

第 6 条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは当該申請について、奨学生選考委員会に諮問し、その答申により奨学生を審査決定する。

(案)

海就支発第 号
令和 7 年 月 日

海老名市奨学生選考委員会 委員長 殿

海老名市教育委員会

令和 7 年度海老名市奨学生の選考について（諮問）

令和 7 年度海老名市奨学生を選考したいので、海老名市奨学金条例第 6 条の規定により、別紙資料を添えて意見を求めます。

令和 7 年度実施状況（当初分）

学年	申請	申請内訳		決定
1	19	新規	19	19
		継続		
2	22	新規	4	4
		継続	18	17
3	25	新規	1	1
		継続	24	22
計	66	新規・継続	66	63

令和 7 年度実施状況（追加分）

学年	申請	申請内訳	
1	1	新規	1
		継続	
2	2	新規	2
		継続	
3	5	新規	5
		継続	
計	8	新規・継続	8

- (1) 学校教育法に規定する高等学校・中等教育学校の後期課程、高等専門学校・専修学校（第3学年まで）に在学する生徒の夢や目標の実現に資するため、勉学、文化芸術、スポーツ、その他の活動に励むことが経済的に困難なものに対し、その負担軽減を図ります。

※経済的状況は、生活保護認定基準の1.4倍

※生活保護受給者は対象外

- (2) 支給額は年額80,000円で返済の必要はありません。

- (3) 7名分の予算に対し8名の応募がありました。

令和7年度
海老名市奨学生選考委員会委員名簿

委嘱期間：令和7年4月1日～令和9年3月31日

No.	氏 名	所 属	備 考
1	ひらい あつこ 平井 敦子	民生委員児童委員	
2	わだ なみよ 和田 波代	上星小学校長	小学校長代表 【R 6 年度】 和田 修二
3	すぎやま ひろたか 梶山 博考	海老名中学校長	
4	くぼたに ゆみこ 久保谷 由美子	有馬中学校長	
5	えんどう かずよし 遠藤 一義	海西中学校長	
6	こみや ようこ 小宮 洋子	柏ヶ谷中学校長	
7	こばやし たけのり 小林 丈記	大谷中学校長	
8	やまかわ いさむ 山川 勇	今泉中学校長	
9	ふじわら たかこ 藤原 敬子	神奈川県立 有馬高等学校長	高校代表